



令和五年度

日南市読書感想文・読書感想画

コンクール受賞作品集

第十五集

主催 日南市教育委員会
協賛 株式会社ニチワ

はじめに

第十五回日南市読書感想文・読書感想画コンクールに応募してくれた児童・生徒のみなさん、本当にありがとうございます。

コンクールに、たくさんの作品の応募があり、みなさんが日頃から本に親しんでいることをうれしく思いました。

みなさんは、本を読んで、「感じたり」「思ったり」「考えたり」「想像したり」したのではないでしょうか。その思い描いたものを感想文や感想画として表現できることは素晴らしいことですし、描いたものは、他に同じものがないみなさん独自の作品となります。その作品に導いてくれるのが本です。

このコンクールを通して、みなさんが大切な本と出会うきっかけとなり、これからもたくさんの本を読んで健やかに成長することを心から願います。

終わりに、本コンクールを実施するにあたり、御協賛いただきました株式会社ニチワ様をはじめ、指導及び審査に際して多大な御尽力をいただきました学校関係者の皆様に対しまして、心からお礼申し上げます。

令和六年二月

日南市教育長 都 甲 政 文

読書感想文コンクール目次

【小学校一年生の部】

金賞 ぼちぼちいこか

酒谷小学校 阿波根 慎誠・・・8

銀賞 うみのいきもの

榎原小学校 河野 芽樹・・・10

銅賞 「タンゲくん」をよんで

吾田小学校 福岡 優太・・・11

【小学校二年生の部】

金賞 「よるのあいだに」を読んで

細田小学校 高橋 柁那・・・12

銀賞 さっちゃん、おうえんしているからね

大堂津小学校 落合 希光・・・14

銅賞 がんばったね！ちいちゃん

飢肥小学校 山田 迪奈・・・15

入選 「外来生物図かん」を読んで

榎原小学校 三浦 心実・・・17

入選 あなたにしか出来ないこと

油津小学校 野田 乃愛・・・18

【小学校三年生の部】

金賞 給食を作る大へんさ

細田小学校 河野 圭之介・・・20

銀賞 ゆう気をだして

飢肥小学校 坂元 伶名・・・22

銅賞 私と小麦ちゃん

鵜戸小中学校 坂元 心春・・・23

入選 やさしい心

南郷小学校 高橋 綾音・・・25

入選 「はれときどきぶた」を読んで

吾田小学校 鳥越 理玖・・・26

【小学校四年生の部】

金賞 不思議な じごく小学校

南郷小学校 加藤 由姫美・・・ 28

銀賞 ドラゴンは、面白いよ

鵜戸小中学校 前田 誠太・・・ 30

銅賞 戦争の苦しさ

細田小学校 松元 碧那・・・ 32

入選 家族のきずなについて学んだこと

吾田小学校 内田 大翔・・・ 34

【小学校五年生の部】

金賞 錦織選手の本から努力するってすばらしい

鵜戸小中学校 坂元 海音・・・ 35

銀賞 「5番レーン」を読んで

北郷小中学校 甲田 迅・・・ 37

銅賞 「願いがかなうふしぎな日記」を読んで

入選 「大地震が学校をおそった」を読んで

榎原小学校 星野 汐羽・・・ 41

入選 人とのちがいをみとめ合う

細田小学校 加藤 伊織・・・ 42

【小学校六年生の部】

金賞 寄りそうじゅう医師

北郷小中学校 甲田 星南・・・ 43

銀賞 自分のことは自分で決めることの大切さ

南郷小学校 山下 梨乃・・・ 45

銅賞 僕は忘れない「8月6日のこと」を

鵜戸小中学校 長友 憲斗・・・ 47

入選 「やくそくだよ、ミユウ」を読んで

酒谷小学校 阿波根 愛海・・・ 49

入選 家族になるということ

吾田小学校 佐藤 陽菜子・・・ 52

【中学校の部】

金賞	彼から知る、私に必要な考え方	
	東郷中学校 三年 蛭原 紗希	・ 54
銀賞	誰かの心を救う大事な言葉	
	飢肥中学校 二年 日高 結奈	・ 57
銅賞	よりよく生きる	
	飢肥中学校 三年 藤井 帆奈海	・ 61
入選	何がそんなに幸せなのか	
	鶴戸中学校 三年 濱田 ひより	・ 64
入選	尊い命	
	南郷中学校 一年 土屋 瑛音	・ 66
	読書感想文の審査を終えて	・ 68

読書感想画コンクール目次

【小学校一年生の部】	・ 70	・ 71
金賞	ふゆのおばけ	
	飢肥小学校 田中 葵	
銀賞	おばけのきもだめし	
	桜ヶ丘小学校 島田 潤奈	
銅賞	かばくん	
	油津小学校 井上 大輔	
入選	ごきげんななめなおさるさん	
	油津小学校 河野 優杏紀	
入選	ふゆのおばけ	
	飢肥小学校 河野 歩嘉	

【小学校二年生の部】・・・・・・・・・・ 72・73

金賞 わんぱくだんのおばけやしき

東郷小中学校 山下 翔生

銀賞 じごくにアイス

東郷小中学校 吉田 東洋

銅賞 なまえのないねこ

油津小学校 崎村 心春

入選 そのときがくるくる

鴻上小学校 酒元 琉希

入選 わんぱくだんのかいていたんけん

東郷小中学校 小田 桜士朗

【小学校三年生の部】・・・・・・・・・・ 74・75

金賞 だいおういかのいかたろう

北郷小中学校 平下 ふうり

銀賞 かもとりごんべえ

銅賞 小さな島の大きな祭り

南郷小学校 阿部 美瑚
吾田小学校 落合 真代

入選 だいおういかのいかたろう

北郷小中学校 由地 恵大

入選 家守神1 妖しいやつらがひそむ家

桜ヶ丘小学校 鳥谷 快斗

【小学校四年生の部】・・・・・・・・・・ 76・77

金賞 ロサリンドの庭

桜ヶ丘小学校 松浦 さや

銀賞 ドラゴン・スレイヤー・アカデミー⑨

桜ヶ丘小学校 河野 明日香

銅賞 海をわたる動物園

油津小学校 鶴岡 夏楓

入選 海をわたる動物園

油津小学校 佐藤 心遥

入選 いつもなかよし

南郷小学校 山本 涼菜

【小学校五年生の部】・・・・・・・・・・ 78・79

金賞 やくやもしおの百人一首

油津小学校 大浦 育夢

銀賞 狐霊の檻

桜ヶ丘小学校 長友 愛莉

銅賞 だれかそいつをつかまえろ

鶉戸小中学校 小寺 閃人

入選 七不思議神社

油津小学校 藤丸 奏生

入選 車のいろは空のいろ 白いぼうし

酒谷小学校 岩倉 白花

【小学校六年生の部】・・・・・・・・・・ 80・81

金賞 人形つかいマリオのお話

油津小学校 平永 一晋

銀賞 ラスト・チェリー・ブロッサム

油津小学校 村角 喜衣菜

銅賞 セイギのミカタ

入選 やくやもしおの百人一首

油津小学校 竹井 柚葉

入選 海のいのち

東郷小中学校 大友 李璃

読書感想画の審査を終えて・・・・・・・・・・ 82

審査員氏名一覧・・・・・・・・・・ 84

読書感想文入賞作品

【小学校一年生の部】

金賞

ほちほちいこか

《講評》

酒谷小学校 一年 阿波根 慎誠

本のおもしろいところやすきなところがわかるようにかかれています。

一ねんせいのきょうしつにあるほんで、一ばんすきな

じぶんだったらこうおもう、こんなきもちになると、

ほんは、「ほちほちいこか」です。

じぶんにあてはめながらかいているところが、とてもよいです。

このほんにでてくるのは、かばさんです。かばさんは、いろいろなおしごとをやってみます。でも、ぜんぜんう

本をよむたのしさにふれて、またよみたいとかいてい
るように、これからもたくさんの本とであってほしいと
おもいます。

まくいきません。かうぼういになろうとして、うまにの
つたら、うまがばらんすをくずしてしまいます。とびこ
みのせんしゅになろうとして、ふうるにとびこんだら、
みずがぜんぶそとにでてしまいます。ばんどにはいって、

ちゅうばをふいたら、ちゅうばのぐるぐるまきのところが、びよよんとびてしまいます。てじなをしようとして、ぼうしにてをいれたら、てがぬけなくなってしまいます。

ほかにも、うまくいかないことがたくさんあって、そのときのかばさんのかおや、ようすがおもしろいです。うまくいなくても、

「あれれ。まあ、いいか。」

というようなかおをしているえがかいてあって、たのしいです。

かばさんは、うまくいかないことばかりでも、おこつたり、ないたりしません。ばくがかばさんだったら、いやになっておこるとおもいます。でも、

「ま、ぼちぼちいこか。」

と、かばさんはいっています。

「おこつても、いいことはないよ。ゆっくりいこう。」
ということかなとおもいました。

おはなしも、えも、とてもおもしろいから、ぼくはこのほんがすきです。

「ぼちぼちいこか。」

と、かばさんのまねをしていうと、たのしいきもちになります。つぎのどくしよのじかんで、またよみたいなどおもいました。

よんだほん「ぼちぼちいこか」

銀賞

うみのいきもの

榎原小学校 一年 河野 芽樹

ぼくは、ひょうしがふしぎだなとおもって、「プラスチックのうみ」をえらびました。どうして、かめがあみにからまっているのかなとおもいました。

よんでみると、うみの中には、こまっているさかなが、いることがわかりました。うみの中にプラスチックやあみがあると、からまったり、けがをしたりします。うみの中には、ペットボトルやキャップ、ビニールぶくろがたくさんありました。だれかわからないけれど、すてているとおもいます。

ぼくは、ごみをすてたらだめだとおもいました。うみのいきものがこまるからです。

ぼくは、うみのごみひろいをしたいとおもいます。うみのいきものが、じゅうにおよげるようになると思います。

よんだほん「プラスチックのうみ」

銅賞

「タンゲくん」をよんで

吾田小学校 一年 福岡 優太

ぼくが、「タンゲくん」をよもうとおもったのは、ぼあばのいえに、ねこが四ひきいるからです。

ひだり目をけがした一ぴきのねこがおんなのこのいえにやってきました。おとうさんは、そのねこに、タンゲくんというなまえをつけました。おかあさんは、タンゲくんの目のてあてをしてあげましたが、いやがってがんたいをすぐとってしまいました。

タンゲくんは、おんなのことおねえちゃんとたのしくせいかつしていて、三人きょうだいのようだなとおもい

ました。

タンゲくんは、たまにおそとへ出て行ってかえってこないこともあるので、おんなのこは、ふあんになってしまいます。

でも、よるになったら、いえにちゃんとかえってきてくれます。おんなのこは、ひとあんしんです。

タンゲくんは、おとうさんやおかあさんがよんでも、しらんかおで、おんなのこのひぎの上であんしんしてねむっています。

おんなのこは、タンゲくんがだいすきで、タンゲくんもおんなのこがだいすきなんだなあとおもいました。

ぼくも、どうぶつをかいたいとおもいました。

よんだほん「タンゲくん」

【小学校二年生の部】

金賞

《講評》

本をとおして自分の知らないところではたらいっている人をしり、かんしゃの気もちをあらわしています。

とくに、日ごろのお母さんにたいしての思いを文しゅうに書いているところがとてもすてきです。

本は、知らなかったことを教えてくれるそんざいでもあります。これからもいろいろな本と出会って、たくさんのはっけんをしたり心をみがいたりしてほしいと思います。

「よるのあいだに」を読んで

細田小学校 二年 高橋 椋那

この本を読んだ時、夜中に、はたらいっているお母さんのことが頭にうかびました。お母さんと同じように、夜のあいだにたくさんの方がはたらいっていることが分かりました。そして、自分たちの生活がささえられていることも分かりました。その中でも心にのこったしごとが二つあります。

一つ目は、パンやのルイージさんです。パンやさんは、朝食を買いに来る人のために、夜中にパンをやいていました。わたしは、朝にやいていると思っていたのでおどろきました。げんじつでもそんなパンやさんがあるのか

なと思いました。

つぎに、二つ目は、線ろをこうじするジョニーさん、ドットさん、アイザックさんの三人です。この人たちは、でん車がじこにあわないようにしたり、でん車にのるたくさんの人のいのちをまもったりするために、夜中にはたらいていました。この人たちがいることで、いのちがまもられていることが分かり、かんしゃの気もちでいっぱいになりました。

わたしのお母さんは、わたしが夜ごはんを食べている時に家を出て、ねている間にはたらいています。それでも朝ごはんをよいいしてくれたり、おべんとうがひつような時はねずに作ってくれます。

わたしはこの本を読んで、ねている時にたくさんの人

がはたらいていることを知りました。お母さんもその一人なので、かんしゃの気もちをわすれず、もっとお母さんのお手つだいをしようと思いました。

読んだ本「よるのあいだに」

銀賞

さっちゃん、おうえんしているからね

大堂津小学校 二年 落合 希光

「さっちゃんのまほうのて」というだい名を見て、どのようなまほうができるのだろうとワクワクしました。しかし、本を読むと、さっちゃんの右の手にはゆびがないのです。かわいいそうと思いました。

この本は、さっちゃんがようちえんで、おともだちから、手にゆびがないことはへんと言われ、かなしい思いをし、ようちえんに行かなくなってしまうですが、おかあさんやおとうさんと話す中で、右手のゆびがないことをうけとめ、つよく生きていくお話です。

一ばん心にのこったことは、さっちゃんは右手のゆびがなくてもがんばっていることです。もし、わたしもゆびがなかったらと考えると、いろいろなことをすることがむずかしくて、あきらめてしまうと思います。しかし、さっちゃんは、どのようなことでもチャレンジし、すてきな人だと思います。わたしのお手本です。わたしもさっちゃんを見ならい、できなくてもあきらめず、がんばろうと思いました。

はじめて知ったことは、おかあさんのおなかの中で、けがをする人もいるということです。わたしはテレビで、目のふ自ゆうな方や耳のふ自ゆうな方を見たことがあります。この本を読んで、テレビで見た方もさっちゃんと同じように、おかあさんのおなかの中にいるときにけ

がをしたのかなと考えました。これから、さっちゃんのような方に出会い、こまっているときは、お手つだいをしようと思います。しかし、わたしは、はじめて会う人に声をかけることはとてもにが手です。ですから、こまっている人をよく見て、自分にできることはないか考え、手つだおうと思います。

「さっちゃん、おとうさんのいうとおり、さっちゃんの手はまほうの手だから、きっとだれにもまけない、すてきなおかあさんになれると思うよ。おうえんしているからね。」

読んだ本「さっちゃんのまほうのて」

銅賞

がんばったね！ちいちゃん

飢肥小学校 二年 山田 迪奈

ちよこんとおすわりして、まんまるの目でわたしをみているこねこ。ひょう紙にのっているこねこに、「いっしょにあそぼうよ。」とさそわれた気もちになったのでこの本を読むことにしました。

この本は、ちいちゃんという小学生の女の子が、かえりみちにひろったこねこのいのちをまもろうとがんばったお話です。

わたしはこの本を読んで心にのこったところが二つあります。

一つ目は、ちいちゃんが学校のかえりみちに、カラスにおそわれているこねこをたすけたところです。本当はちいちゃんもカラスがこわいはずなのに、ゆうきをふりしぼって立ちむかうところがとてもかっこいいです。

わたしは、こわい気もちやはずかしい気もちのほうがたくさん出てくるので、ゆう気の力がなかなか出てきません。これからは、ちいちゃんをわたしの心のおまもりにして、ゆうきをもった行どうができる人になりたいです。

二つ目は、ちいちゃんはおかあさんの言うとおりにひろったねこをかってくれる人をさがすやくそくをまもろうとするとこです。がまんができてとてもえらいと思います。わたしだったら、ねこが大すきなのでかっても

らえるようにおねだりすると思います。

わたしは、おかあさんとおかいものをする時に、たべたいおかしが二つあってがまんできないことです。ちいちゃんをみならって、おかあさんをこまらせないようにがまんのれんしゅうをしようと思います。

ちいちゃんは、こねこのいのちをたすけるために、自分のアイディアをたくさん出してどんどこうどうしていました。とてもすごいと思いました。だから、ちいちゃんにほかほかことばをプレゼントします。

「がんばったね！ちいちゃん。」

読んだ本「かわいいねこをもらってください」

入 選

「外来生物図かん」を読んで

榎原小学校 二年 三浦 心実

わたしは、どうぶつやふしぎな生物が大好きです。今回は、外来生物のことが気になり、外来生物図かんを読みました。そのなかでわたしが気になった生物が何びきかいます。

まずは、アライグマです。アライグマは、日本のどうぶつのイメージがあります。しかしじつは、アメリカから日本にきた外来生物なのです。しかもアライグマは、かわいい見ためとはちがい、とてもきょうぼうなどうぶつだということにおどろかされました。これからどうぶ

つえんで見た時は、かわいさだけでなく、きょうぼうなところにもちゅういして、かんさつしてみたいです。

つぎに気になった外来生物は、ヒアリです。ヒアリは小さな見ためとはそうぞうできない強いどくをもっていて、とてもきけんな生物です。アメリカなどからとどくにもつにヒアリがついていることもあるらしく、日本でも少しずつはっけんされたというニュースを耳にします。わたしたちのみじかな場しよで外来生物のきけんがせまっているのがおそろしいです。小さなアリでも、もしかしたらヒアリかもしれないと考えながら、ちゅういぶかくかんさつしていきたいです。

さいごは、セイヨウタンポポです。このタンポポは、ヨーロッパから食ようとして日本にきました。食べるこ

とももおどろきました。じつは外来生物だったと知り
さらにおどろきました。セイヨウタンポポは、どのよう
なりようりにつかうのか、また、どんなあじがするの
かなどしらべてみたいです。

わたしたちのみの回りに、ほかにもかくれた外来生物
がいるかもしれないので、これから外来生物図かんを
読んで、しらべていきたいと思いました。

読んだ本「ゆるゆる外来生物図鑑」

入選

あなたにしか出来ないこと

油津小学校 二年 野田 乃愛

私がこの本を読んだ理ゆうは、作者アンドレア・ベイ
テイの作品が大すきだからです。私は、この作者の物語
を読むと心があたたかくなります。

このお話の主人公アーロンは、文字を読んだり、書い
たりするのがにが手なディスレクシアをもっている男
の子です。そんなアーロンが一番幸せな時間は、ブラン
コの上で本を読んでもらっている時でした。私もねる前
に母から本を読んでもらうのが大すきです。アーロンは
たくさん本を読んでもらっているうちに、自分でも物

語を作ってみたくなりました。でも、アーロンにとって書くことはすぐむずかしいことでした。私は、アーロンに物語を書くことをあきらめてほしくないと思いました。

アーロンが小学二年の時、物語を作る宿題が出ました。アーロンは書けなくて、一ばん中くるしんだと思います。しかし、次の日、アーロンが物語を読む番になると、自分の頭の中でしあがっている物語を語り始めました。その物語にみんな感動しました。私もアーロンの語ったぼうけんの物語にひきこまれました。

物語を文字にせず、まほうの花とヒーローが登場する話を想ぞう力だけで語れるなんてアーロンにしかできない事で、「あなたにしかできない」大切な事だと思

ました。さらに、アーロンは絵を描くことで自分の思いを伝える方ほうも見つけだしました。

その後のアーロンは画家になっていました。絵をとおして、アーロンの物語を多くの人々に伝えたそうです。

私は、ディスレクシアの子を初めて知りました。私がアーロンだったら、さい後まであきらめずにやりとげる事は出来なかったと思います。でも、「あなたにしかできないこと」でど力したアーロンにゆう氣をもらったので、私もたくさんのゆめをもって、自分にしかできないことを見つけていきたいです。

読んだ本「ぼくのこころがうたいです！」

【小学校三年生の部】

《講評》

さいしよに給食への思いと本をえらんだりゆうをはつきりとしめています。

そして、あらすじを書くのではなく、感じたことやおどろいたこと、自分がけいけんしたことをのべながら、この本をとおして学んだことを書いています。さらに、これからの自分がどうすごしていくかも書いているのが、とてもよいです。

この本をとおしてせい長したことがよく伝わる、すてきな文になっています。

金賞

給食を作る大へんさ

細田小学校 三年 河野 圭之介

ぼくは、給食が大すきです。ぼくの学校には、給食センターがあります。4時間目になるとおいしそうなおいがします。ぼくはにおいがしたら、きょうの給食もおいしそうだかと楽しみになります。ぼくは、大すきな給食がどうやってできているか知りたかったので「給食室のいちにち」という本を読みました。この本は、八人の給食を作る人が主人公の物語です。

ぼくがこの本を読んで一番心にのこったところは、たったの八人で四五〇人分の給食を作るところです。少な

い人数で、たくさんの給食を作るなんてすごいなと思いました。きかいで切るやさいもあるけど、玉ねぎは自分でほうちょうを使って切っていて、うでがつかれないのかなと思いました。ぼくも玉ねぎを切ったことがあるけど目からなみだがながれました。ぼくは、少しでも目がいたくなっただけど、給食を作る人はいたくないのかなと思いました。そして、大がまをまぜるのもきつそうだなと思いました。あついし、力もいるからです。大へんだけど、ぼくも一どやってみたいです。それと、ぼくは給食が作りおわったら帰ると思ってました。でも、そうじやかたづけ、しょうどくをしていたので、びっくりしました。

ぼくは、この本から給食を作る大へんさを学びました

ぼくの学校でも大へんだけどがんばって給食を作ってくれてるんだなと思いました。だから、感しゃしながら食べたいです。ぼくの学校の給食は子どもが食べやすいようにいろいろくふうして作ってくださいます。おかげで、いつもパクパク食べて、とっても元気です。これから、おいしい給食を楽しみにしています。

読んだ本「給食室のいちにち」

銀賞

ゆう気をだして

飢肥小学校 三年 坂元 伶名

「この本、本当にあった話だよ。感動するよ。」

本屋さんに行った時、お母さんが言いました。

わたしは、どんな本だろうと読んでみたくまりました。

この本は、目のびょう気で目が見えなくなったおじさんのバスの通きんを、小学生の子どもたちがお手つだいをする話でした。小学生のさきちゃんからはじまった

「バスが来ましたよ。」

という声は、まわりの小学生にリレーされて十年い上もつづいたそうです。わたしは、この本を読んで心がポ

カポカしました。

わたしがさきちゃんのすごいなと思ったところは、おじさんに声をかけたゆう気と思いやりの心です。

わたしは今、さきちゃんと同じ小学三年生です。わたしは、さきちゃんみたいにできるかなあと考えました。お手つだいをしたいという気もちはあるけど、わたしは人見しりで声をかけることが苦手です。でも、これから少しだけがんばろうと思います。なぜかという、わたしは、学校のふくし体けんでアイマスクをつけました。つえを持って、友だちと手をつないで、声をかけてもらいながら歩きました。何も見えないのは、とてもふあんでした。すごくこわかったけど、友だちにお手つだいをしてもらおうと少しあん心しました。

だから、目が見えないおじさんの気持ちが少しだけわかりました。おじさんもさきちゃんに、

「バスが来ましたよ。」

とお手つだいをしてもらって、とてもあん心したと思います。

わたしは、自分がふあんな時、こまっている時にたすけてもらうとうれしいし、ありがたいの気持ちでいっぱいになります。だから、こまっている人がいる時は、ゆう気をだしてお手つだいをしたいと思います。わたしも、思いやりのバトンをうけついで、あたたかい心のリレーができるようにがんばりたいです。

読んだ本「バスが来ましたよ」

銅賞

私と小麦ちゃん

鶺鴒小中学校 三年 坂元 心春

「うまれたね

うまれたよ

よかったね

よかったよ

おめでどうおめでどうおめでどう。」

天然こう母を作ろうとして、ピンを開けるとこの声が聞こえてきました。その声は、プカプカたちの声です。プカプカというのは、こう母のことです。こう母がなにか分からなかったので、国語辞典で調べました。こう母は、

カビのなかまで、とうぶんを発こうさせてアルコールとにさんかたんそに分けるはたらきをする生物でお酒・ビール・パンを作るのに使う、と書いてありました。こう母にようせいがいるなんてすてきだと思いました。私もプカプカの声が聞こえたらいいな、と思いました。みなさんもプカプカの声聞きたいですよ。

この本の中で、心にのこったところがあります。それは、ようせいのココモモがおねえさんになったところです。なぜ心にのこったかという、自分も同じことがあったからです。おねえさんになるととてもドキドキします。私の妹が生まれたとき、私の心の中は激しくドクドクしていました。ココモモもきつときんちようしながらもうれしそうに生まれてくるのをまっていたと思いま

す。

私はしょうらいのゆめがあります。それは、パスタやさんです。この本に出てくるしゅじんこうの小麦ちゃんは一生涯けんめいでもなんなことでもあきらめずにちょうせんしていました。あきらめずにがんばった小麦ちゃん、おいしいおいしいカレーパンを作ることができました。私も小麦ちゃんのように一生涯けんめいがんばることで、オリジナルパスタをかいわつしてふるまいたいです。食べる人のことを考えて仕事をしたいです。私はやさしい心があります。もちろんしゅじんこうの小麦ちゃんもやさしい心がありました。やさしい人が作る料理はほつぺたがおちるぐらいおいしい料理だと思います。私のお母さんもやさしくて料理もすごくおいしいからです。私

もお母さんのように、料理がうまくなりたいです。私も小麦ちゃんのように、おきやくさんがたくさんふえるパスタやさんになりたいです。そのために、小麦ちゃんがおじいちゃんとパンのようせいにパンの作り方をならったように、私もお母さんに料理をならったり、レシピの勉強をしたりします。ゆめにむかってがんばります。

読んだ本「妖精のパン屋さん」

入選

やさしい心

南郷小学校 三年 高橋 綾音

「きつねは、なんて心がきれいなのだろう。」
これが、読み終えたときに、わたしがさいしょに感じたことです。

まさか、きつねがしんでしまったところから木がはえてくるとは思ってもいませんでした。きつねは、なぜそうしたのでしょうか。きつねの立場になって考えてみると、その気持ちが見えそうです。きつねはきつと、生きていたときに、森の動物たちにやさしくしていたように、しんでからもみんなにやさしくしつづけたと思うたからだと思います。

わたしも、みんなにやさしくしたいと思い、たくさん

やさしくできたことがあります。人にやさしくすると、

自分もうれしい気持ちになります。ぎやくに、友だちに

やさしくしてもらったこともあります。そのときのうれ

しい気持ちは、今でもおぼえています。森の動物たちも、

きつねのやさしさをずっとおぼえているのだと思いま

す。いのちの木を見ることで、きつねのやさしさを思い

出すからです。

わたしも、この本のことを思い出しながら、友だちに

たくさんやさしくしたいと思います。

読んだ本「いのちの木」

入選

「はれときどきぶた」を読んで

吾田小学校 三年 鳥越 理玖

ぼくが、この本を感想文にしようと思ったのは、本を
買いに行った時に本の題名を見て、おもしろそうだと思
ったからです。

この本は、十円ですが、明日のうそ日記を書き、次の
日に、それが本当になるという話です。

明日の日記には、「トイレにへびがいた」、「金魚がア
ツカンベーをした」、「はれときどきぶた」という日記が
ありました。とくに「ぶたぶたぶた」は、ぶたが本当に
ふってきてもおもしろかったです。

次の日に、本当になったときは、びっくりした気持ちとなぜだろうと、ふしぎな気持ちになりました。

ぼくは、もし日記に書いたことが本当になるなら、「たからくじで一等があたる」、「ダイヤモンドがはこの中にはいってる」、「ディズニーランドに行く」を書きます。

十円やすは、あした日記が本当になるのが「もういやだ」という気持ちになっていました。そして十円やすの学校の和子先生が「日記には、本当のことを書きなさい」といったことを思い出して、あしたの日記をやめて今日の日記を、書くことにしました。

ぼくは夏休みで一行日記を書きわすれていて、二日前の事を思い出して書いたことがあります。

あしたの日記ではないけど、二日前に本当にしたかな

あとという気持ちで書いていました。

これを読んでぼくも本当にしたかなあ、の気持ちで書いていた一行日記を、毎日その日に書こうと思いました。

ぼくは本を読むのが苦手だけど、この本を読んでおもしろかったり、びっくりしたり、いろんな気持ちになることがわかりました。

これからは、本をたくさん読もうと思いました。

読んだ本「はれときどきぶた」

【小学校四年生の部】

金賞

不思議な じごく小学校

南郷小学校 四年 加藤 由姫美

《講評》

本との出会いによって、初めて知ったことがあったときのおどろきや作中人物の言動に心を動かされたことが素直な言葉で表現されていました。また、自分の生活場面と照らし合わせながら読み進めることは考える力を育てる上でも大切なことだと思います。

これからもいろいろな本との出会いの中で心を動かされることが、人として成長させてくれることでしょう。

わたしには、大好きな本があります。それは「じごく小学校」です。

家族や友だちにお話してできるほど、こんなにすてきな本に出会えたのは初めてで、出会えてうれしいなあと思います。

わたしが一番好きなのは、いたずらすぎのつよしが生き物を大事にしている場面です。じごく小学校では、みんなおになるので、悪いことをするのがふつうで、それが「良いこと」となっています。そんなじごく小学校に

たんけんに来たいたずらつよしの目に飛びこんできたのは、おにが犬をいじめている場面でした。犬がおびえて悲しんでいるのにもかかわらず、水をかけているのを見て、いたずらつよしは犬をだきしめて守りました。

「かわいそう」、「おにはこわいけど、守ってあげなきゃ」という強い意志や勇氣をもって、立ち向かった結果、自分も水をかけられ、その上、おにから「変なやつ」と言われて、いたずらつよしは、くやしくて悲しかったと思います。

それでも、犬を助け、守ってあげるという、いたずらつよしにしかないやさしさに、わたしは感動しました。

この本を読んで、じごく小学校という学校が本当にあるのか、それともないのかといういろいろ考えて、何だか不

思議な気持ちになりました。

わたしの通う南郷小学校は、やさしい心もち、勉強を一生けん命して、何があってもあきらめない、そんな人たちがたくさんいる、そんな小学校です。わたしは、この南郷小学校が大好きです。

いたずらつよしが見せた強い意志や勇氣、思いやりの心が、わたしの大好きな、この南郷小学校でも、もっともっと広がっていくといいなあと、わたしは、心から思います。

読んだ本「じごく小学校」

銀賞

ドラゴンは、面白いよ

鵜戸小中学校 四年 前田 誠太

「海よりうまれよし雨のもと大気にとけて空にのぼり雲となつて雨をふらせたまえ。」

ぼくが、読んでいて一番心ひかれたのがこの言葉です。ふだん苦手なナメクジです。けれどもこの本にでてくるナメクジは、ちよつとかわいくて、ほんのすこしかっこいい気がします。

このじゅもんは、むらさき色の雨がふるじゅもんです。みんなのせんだくものをぬらすために、むらさき色の雨をふらせようとして、このナメクジは、じゅもんをと

えたようです。ここでぼくは、

「先生これ、すばらしくおもしろいです。」

と大きな声で言いました。すると先生が、

「むらさき色の雨、それってあめふらしじゃないのかな。」

と言いました。ぼくが、今までナメクジだと思っていたのは、あめふらしだったのです。あめふらしは、海に住んでいて、ナメクジとちがって貝がついています。ぼくは図かんを見て、

「こんなナメクジいるんですか。」

と先生に聞いたら、

「これを言うのは二回目ですがあめふらしですよ。」
と先生が言いました。

ぼくは、あめふらしという生物をみたことないので、あめふらしという名前の生物がいると知ってびっくりしました。ドラゴンは、ナメクジにいているあめふらしのことを知っていて、ドラゴンの知しきに負けてしまった気がして、くやしかったです。

ほかにも、カッパンというドラゴン王子のお父さんの家らしいがいます。

カッパンは、ドラゴンぞくではないので、カッパンは、雨をよぶ力がないのです。川や水がないときカッパンのお皿がかわいてきて、そのときカッパンは、コップ一杯分の水を少しだけふらせて、とてもうれしそうな表じょうをしていました。

この本からぼくは、面白い事の大切さや、大事な時に

ねむってはいけないということ学びました。このことをいかして家族の事をわらわせたり、大事な時にねないようにしたりして、生活に生かしていきたいです。

読んだ本「ドラゴンはキャプテン」

銅賞

戦争の苦しさ

細田小学校 四年 松元 碧那

わたしは、「キャラメルの木」という本を読みました。

この本を選んだ理由は、キャラメルの木から、本当にキャラメルがなるのかわくわくしたからです。

この本は、しんのすけがおばあちゃん家に行って、おばあちゃんと戦争の話をする話です。その中でおばあちゃんは弟のたかしのためにうそをついたということをしんのすけに話します。

わたしはこの本を読んで、一番心に残ったことは、しんのすけがおばあちゃんの小さいころの戦争の話を聞

いて、おばあちゃんをなぐさめようと、お父さんとキャラメルの木を作っておばあちゃんをよろこばせてあげたところでした。わたしは、しんのすけはやさしいなと思いました。なぜなら、もしわたしがしんのすけだったら考えると、そんなこと思いつかないだろうと思うからです。きつとしんのすけは、おばあちゃんのをとりもどしたいと思って、キャラメルの木を作ったと思います。

その後、おばあちゃんがいなくなって、わたしも悲しくなりました。それからしんのすけは、おばあちゃんのためにキャラメルをそなえていたので、えらいなと思いました。わたしも、ひいじいちゃん、ひいばあちゃんたちの好きな食べ物などを調べて、自分でおそなえしたい

です。しんのすけのおばあちゃんはきつと、

読んだ本「キャラメルの木」

「しんちゃん、おばあちゃんほうそをついたのに、キャラメルの木を作ってくれてありがとう。そして、おばあちゃんみたいにおそなえなどをしてくれてありがとう。」と天国からうれしそうに言ってくれていると思いました。

わたしはこの本から、戦争のこわさを学びました。戦争は、たくさんの人がなくなるし、食べ物がなくなったり、病気になったりする人もいれば、家族とはなればなれになるかもしれません。だから、戦争はぜったいにしではいけません。国と国で戦争をしないように、みんなで協力していつてほしいです。

これからも、平和な時代が続きますように。

入選

家族のきずなについて学んだこと

吾田小学校 四年 内田 大翔

ぼくは、「はくちょうのおうじ」という本を読みました。この本を選んだのは、白鳥の王子の意味を知りたかったからです。

この本は、母親のおきさきが早くなくなり、新しいおきさきがいじわるで、十一人の王子がのろいをかけられて、白鳥になったお話です。そして、王子の妹エリサは、いじわるをされて、お城を出ることになりました。エリサは十一人の王子を探す旅に出て、白鳥を見つけ出し、ま女からのろいをとく方法を教えてもらいました。エリサは、いら草で十一人の服を一言もしゃべらずにあんで、

のろいをとくことができました。

ぼくがこの本を読んでいちばん心にのこったところは、十一人の王子がエリサを助けて、エリサが一言もしゃべらず服をあんで、十一人ののろいをといたところです。ぼくだったら、できなかつたと思います。

ぼくは、この本から兄と妹のきずなを学びました。これからは、ぼくも、妹と助けあつていきたいです。

読んだ本「はくちょうのおうじ」

【小学校五年生の部】

金賞

《講評》

読書をして、強く心を動かされたことを素直に表現しています。自分の体験とからめて考え、作者の生き方に共感し自分の生き方に大きく影響えいきょうを与えています。日常の実践じっせんやこれからの決意にもつながっており素晴らしい感想文になっています。

にしじり
錦織選手の本から努力するってすばらしい

鵜戸小中学校 五年 坂元 海音

僕は、一年生、七才からテニスを練習しています。

「将来は、テニスで世界一になりたい。」

この言葉は、にしじり
錦織選手が六年生のころに自分で決めた将来の夢です。僕は、すごいけど本当になれるのかなあと思いました。なぜなら、世界一は簡単にはなれないし、外国の選手は、すごく強いので夢はかなうのかなと正直に思いました。しかし、予想は外れました。

なんとにしじり
錦織選手は、十四年後、世界ランキング第四位になる超一流プレイヤーへと成長していました。

僕は、この結果は、かなりの努力があったからだと思
います。例えば、速いサーブを身に付けたり、簡単に相
手が取れないドロップショットを使ったりすることが
完ぺきにできたのだと考えました。今、僕はテニス歴が
五年で楽しいです。でも苦しいです。それは、試合で毎
回、予選敗退になってしまい上位へ進めないからです。
原因は、相手のボールに対する反応が速くないからだと思
います。だから、僕は、フットワークトレーニングを
したり、ランニングをしたりして下半身をきたえていま
す。練習はとてもしついです。自分の限界を本番で突破
しないと勝てないからです。

これまで僕は、優勝をBクラスで一回取っています。
この時は、大きい声を出せて、よくボールを追いかけてま

した。ボレーもきまりました。初優勝したときは、
「きつい練習をしてきてよかった。次も優勝したい」
と強く心に思いました。錦織選手は、六年生ですでに日
本最強のテニスプレイヤーだったそうです。僕には、ま
だまだ遠いです。なぜなら、僕は、今、テニスでキャプ
テンをしています。うまくいかないことも多いです。
みんなを動かすことが難しい。みんながまとまりません。
だから、友達が僕にアドバイスとして、

「監督に積極的に次の行動を聞く。そして、大きな声
で指示を出したり、みんなを集めたりするといいよ。」
と教えてくれます。僕は、気持ちにしろが小さいのかなと。

この本から、錦織選手は、小さい頃は恥ほどずかしがりや
で目立つ程上手くはなかったことを知りました。僕だ

って、今の自分を乗り越えられる気になりました。これまで、大好きなテニスだけど、何回もやめたい、もう無理と数多く思った事があります。錦織選手にしこりも同じだった。僕は、勇気をもらいました。

僕の夢は、Aクラスで優勝すること。今はまだまだです。でも、あきらめないで毎日努力し続けられれば、絶対に夢は実現します。Aクラス優勝！絶対にします。キャプテンとしても努力し続けます。錦織選手にしこりも、まだ実現していない世界一を目指してがんばって！僕もがんばります。

読んだ本「アスリートの原点1」

才能に勝る努力

銀賞

「5番レーン」を読んで

北郷小中学校 五年 甲田 迅

ぼくが、体育でプールのじゅ業をしている時期にこの本を見つけました。表紙には、プールに飛びこもうとしている所で、水泳の話なのかなあときょう味を持ったから読む事にしました。

かん国のお話で主人公のカン・ナルが、水泳部のエースでいたけれど、ライバルに負けてばかりで、あやまちを起こしてしまったお話です。

ぼくは、読み始めから読み終わりまで、主人公のナルの気持ちに、はらはら、ドキドキでした。エースだった

ナルが、ライバルに初めて負けた時は、いかりがこみ上げたと感じました。

ぼくも、同じような経験があります。徒競走でトップだったけれど、ライバルにぬかさされた時は、いらいらしました。ナルは、いかりがこみ上げてきたその時に、ライバルの水着に不正があるのではないかなあと思っただと思います。練習をしていたライバルの水着をぬすんでしまった時、ナルは心が痛まなかったのかなと思いました。ぼくは、はっとしました。相手をうたがいたい気持ちは分からなくはないけれど、相手がきずつくようないは、してはいけないと思います。相手との仲が、ぎくしゃくしてしまうからです。

ナルの心が転校してきた子にゆれ動いていました。ナ

ルにとつたら水泳よりも転校生のボーイフレンドという時の方が、わくわくやドキドキしていたんだろうなあと思いました。

ぼくには、その気持ちは分からないけれど、これから先ドキドキがあれば学校生活がもっと楽しくなるのかなあと思いました。最後の大会でナルは、やはり、ライバルに勝てずに二位でした。今までエースだったから、ぼくは、ナルに勝ってほしかったけれど、ナルはライバルに対して、どこか申しわけない、ごめんという気持ちがあったのではないかなあと思いました。一位のライバルが泳いだレーンは4番レーン、二位のナルが泳いだレーンは、5番レーンでした。

スポーツで戦う時は、正々堂々と戦わないといけな

いと学びました。ぼくはそう合かくとうぎの柔術じゆうじゆつの試合で二位でした。くやしくて泣いたけれど、その決勝戦で次の目標が見つかりました。その相手に同じ負け方をせず、どんな勝ち方が気持ちがいいか考えて、正々堂々と戦う事が大切だと学びました。スポーツでも、テストでも正々堂々といどみたいです。

読んだ本「5番レーン」

銅賞

「願いがかなうふしぎな日記」を読んで

南郷小学校 五年 守山 空澄

ぼくが、この本を読むきっかけになったのは、タイトルの「願いがかなう」という言葉が気になったからです。いったい、どんな願いがかなうのだろう、知りたいな、と思ったので、この本を読むことにしました。

この物語の主人公は、光平という六年生の男の子です。この話のすごいところは、光平が自分で口にしたことや、文字に起こしたことが現実になっていくことです。たくさんのお出来事が起こるのですが、その中からいくつか紹介します。

一つ目は、「もう一度おばあちゃんに会いたい」と日記に書いて、夢の中で何度もおばあちゃんと会うことができました。光平がある時は飛行機のそうじゅうしになって、またある時は新かん線の運転手になっているところが、いかにも夢の中という感じがしておもしろかったです。

二つ目は、「読書感想文」です。予定の期限よりも早く本は読み終わり、すぐに感想文に取り組んだのですが、頭の中に、登場人物の名前や、細かい風景の描写びようしゃがあふれ返り、うまく文章にまとまりません。しかし、書いては消し、書いては消しを繰り返していくうちに、ようやく完成します。投げ出しそうになる気持ちをおさえ、

「あせらない、あせらない」と唱となえながら、気持ちをお

さえて書いたから、読書感想文を書くという願いが、かなったのだと思います。

最後に、光平は、自分の願いをかなえるために、口にしたたり、書いたりするのですが、それには、光平自身の努力やこうなりたいと強く願う気持ちがあったのだと思います。

ぼくも、あれをできるようにしたい、こうしていきいたい、というのは今までであったのですが、なかなか実行できませんでした。今後は、光平を見習って、少しでも実現していきたいです。

読んだ本「願いがかなうふしぎな日記」

入選

「大地震が学校をおそった」を読んで

榎原小学校 五年 星野 汐羽

私は、手島悠介てしまゆうすけの「大地震が学校をおそった」という本を選びました。なぜこの本を選んだかというと、私は、大地震を経験したことがないので、大地震が起きたらどうなるのか気になったからです。

主人公の利加子は、音楽コンクールでリコーダーをひく係です。音楽コンクールで演そうするために、練習をしていたところ、震度六の大地震が起きてしまいました。私が心に残った場面は、行方不明になったお父さんが見つかった場面です。なぜ心に残ったかということ、お

父さんが見つかっていなくても明るかった利加子がお父さんが見つかったら、なみだをうかべていて、まるで別人のようだったからです。人はこんなに変わるんだと思ったし、私もお父さんが亡くなったらと考えると、なみだが出そうになりました。また、私は利加子の「お父さんは強いから、だいじょうぶよ。帰ってくる。」

という、お母さんをなぐさめるような言葉に感動しました。もし私が利加子だったら言えないので、利加子はとても強くてやさしい子だと思います。

私は大切な人を失いたくないので、これから地震の対さくをしつかりとして、もし地震が起きても冷静に行動していこうと思いました。

読んだ本「大地震が学校をおそった」

入選

人とのちがいをみとめ合う

細田小学校 五年 加藤 伊織

私がこの本を選んだ理由は、本を開いた時の「ただ人とちがうだけで」という言葉に興味をもったからです。

私がこの本を読んでみて心にひびいた言葉があります。それは、「人とちがうっていいことだと思います。だれかをきずつけたりしないかぎり、世の中には、いろんなちがいをもった人が必要です。」という文です。

私もアデイのように人とちがう人に会ったことがあります。人はみんなちがっていいと思いますし、ちがう所があることが人間の良さだと思っています。

また、アデイは差別を受けた経験をみんなの前で伝えています。私がアデイだとしたら伝えたい気持ちがあっても、人前で伝えることをあきらめてしまうと思います。しかし、アデイは伝えました。そこで私はアデイの強さを感じました。

これから、私はいろいろな人と出会うと思います。自分とちがうところもみとめ合っていきたいです。そして、苦しんでいる人がいたら助けられる人になりたいです。

読んだ本「魔女だったかもしれないわたし」

【小学校六年生の部】

金賞

寄りそうじゅう医師

《講評》

北郷小中学校 六年 甲田 星南

実話や物語の主題を的確にとらえ、自分の経験や今までの考え方と照らし合わせて、深く考えているところに感心しました。その本に出会ったきっかけや内容について、感想文を読む人にとって、わかりやすく簡潔かんに書き表している工夫にも素晴らしさを感じました。自分にとっての今後の目標や生き方に、その本がどのような影響えいきょうを与えてくれたのか、とても熱く語られていて、読み応えがありました。

「熊本地しんで人とペットを救った動物病院」わたしは表紙に書いてあったこの言葉に心を打たれたので読むことにしました。この本は、熊本地しんの時にじゅう医師がひ難する場所がないペットとその飼い主を救った話です。

わたしが心動かされた場面は、竜之介先生が地しんが起きて一度もあせらずにペットのしんりようを行っていた場面です。竜之介先生が院内で、あっちこっち、走っている姿が目にかびました。けれど一ぴき、一ぴき、

その子の状態に合わせて、ていねいにしんりょうしている姿がかっこよく、ペットに寄りそっている事が分かりました。

しん災の中、マスコミの取材ラッシュがあったそうです。生中けいで、

「先生、なぜこうしたひ難所を開設されたのですか？」という取材に、竜之介先生は、こう答えていました。

「災害時にペットをつれてひ難することは、国の方しんになっていきます。それなのに、犬やねこといっしょに入るひ難所はありません。入れたとしても、人と動物はべつべつの部屋になります。不安なときこそ、いっしょにいられるひ難所が必要だと考えたんです。」

わたしはこの場面で、とても強く共感しました。なぜ

共感したかということ、災害時にペット同はんで入れるひ難所が確かにないと思ったからです。わたしは市で開かれたことも議会に参加し、この質問をしました。すると、

竜之介先生が言った事と同じ答弁でした。わたしはその時に納得がいきませんでした。ペットは家族です。大変な時ほどいっしょの空間に居た方が良く考えるからです。ペットは人間の言葉は話せなくても、人間の考えや気持ちは理解できると思います。日常で、人間はペットからたくさんいやしをもらいます。

わたしが知っている先生で、子どものころからの夢が「子どものことをしっかり考えられる教員になる」という先生がいます。この先生は、児童のなやみや不満などを聞いてくれ、解決方法やアドバイス、ポジティブな言

葉などをくれます。先生もやるのがたくさんある中で、児童を優先するところ、わたしは、とても児童に寄りそってあげているんだなと気付きました。

わたしの夢は、じゅう医師になる事です。竜之介先生や、学校の先生みたいに、相手に寄りそえる人にまずなりたいです。そこから、ペットといっしょの空間に居られるひ難所を作りたいです。

読んだ本「竜之介先生、走る！」

銀賞

自分のことは自分で決めることの大切さ

南郷小学校 六年 山下 梨乃

「気にかかるな」

「約束」という題を見たときのわたしの第一印象です。物語の本をあまり読まないわたしが、めずらしくこの本を読もうとしたのは、「金色の約束」という題名が心にひびいたのと、約束や友情に興味を持ったからです。

この物語の作者松本聰美さとみさんは、なんとすばらしい表現力を持った人でしょう。はじめは、小さいころ仲が良かった主人公の光輝とその友達智彦は、あずま屋へもしょっちゅう行っていました。けれどある日、自分たちのことでトラブルが起こり、仲が悪くなってしまいました

た。そんな光輝と智彦にあずま屋のじいちゃんは、二人にと大きなバッグを残して天国へ行きました。大きなバッグの中には、手書きの地図と砂金採りグッズが入っていて、二人で協力して砂金を採りに行きます。そして最後は二人の仲が深まります。

「道はさまざまだ、自分にぴったりの道を自分の目で見つけるがいい。」

というあずま屋のじいちゃん言葉に光輝は心を動かされ、自分の力がだれかの役に立つ、そう思える道を探すためにがんばるんだと決意しました。そして二人はまた一緒に砂金を採りにいこうと、「金色の約束」をしました。

わたしはこの本を読んで、あずま屋のじいちゃんの手

紙の言葉一つ一つが心にしみました。あずま屋のじいちゃんの言葉は、作者が読者に伝えたいことなんじゃないでしょうか。自分が光輝になったと考えると読むと、そう推測できます。

わたしは、この物語から、自分のことは自分で決めることの大切さを知り、友達がどれだけ大切なのかを学ぶことができました。また、この本は未来の自分にぴったりの道を考える機会ができる本だと思います。これからも、松本聰美さとみさんの作品をもっとたくさん読んで、いろんな想像の世界にひたりながら、自分をいつそう高めていきたいと思います。

読んだ本「金色の約束」

銅賞

僕は忘れない「8月6日のこと」を

鵜戸小中学校 六年 長友 憲斗

「大好きだったお兄さんは、一瞬^{しゆん}でいなくなってしまうった。」

このことばは、「8月6日のこと」という本の中で主人公の妹の悲しい気持ちを表した文です。僕には、お兄ちゃんがいます。いつもキャッチボールをして遊んでくれます。だから大好きです。大好きな兄が一瞬^{しゆん}でいなくなるなんて想像できません。想像するととても怖^{こわ}くなります。

お話の妹は、十六才。今から七十五年前に戦争をして

いたころの人です。妹のお兄さんは、広島市で兵隊をしていました。戦争中は食料が不足します。お兄さんが、おなかをすかしてはかわいそうだと思い、妹は電車に乗ってこっそり差し入れをしていました。これは、軍隊のルールをやぶることなのでやってはいけません。もし、上官に見つかるひどく叱られてしまいます。でも、お兄さんは、マスクをしてこっそり差し入れを食べていました。僕は、考えました。もし見つかって叱られるのは、かなりいやです。たぶん、なぐられるでしょう。それでも、食べるといふことは、覚悟^ごしながら、妹への感謝に應えるためだと思います。戦争でなければ覚悟^ごして差し入れを食べることはないのに……。戦争は本当に悲しいことです。

今、世界ではウクライナが一年以上も戦争をしています。そこに住む人々は、食料がなくて困っているとニュースで言っていました。ウクライナの人たちも、生きることに必死なのかと考えます。

主人公の妹は、お兄ちゃんが差し入れを食べてくれて毎日作ってあげて届けたと思ったはずです。ところが、八月六日に広島に原爆ばくが落とされました。ピカッと光ってドーンと音が後からやってきて、ピカドンと呼ばれたそうです。広島の人々は、それが原爆ばくという核兵器であることを全然知りませんでした。広島は、一瞬しゅんで無くなりました。すべての物が一瞬しゅんでなくなり変わり果てることを僕は、想像できません。建物がぐちゃぐちゃになり人が消えてしまうことはとても残酷なことです。

当然妹のお兄ちゃんも、落ちた原爆ばくの近くにいたので、一瞬しゅんでいなくなりました。妹は、手にお弁当を抱えたままお兄ちゃんにもう二度と会うことができなかつたのです。つらかったでしょうね。僕のお兄ちゃんがそうだったら、僕は泣き叫びます。

「戦争なんかやめてしまえばいいのに」と。悲しく腹が立ちます。

日本は、今とても平和です。それは、原爆ばくが落とされて苦しい思いがあつたからです。でも世界では、戦争が起きています。戦争は、人の悲しみを何十年も続けさせます。戦争をしないで、国同士が話し合つて解決してほしい。僕は、今からもこれからも八月六日のことを忘れずに、平和な日本にしていきたいです。

読んだ本「8月6日のこと」

入選

「やくそくだよ、ミュウ」を読んで

酒谷小学校 六年 阿波根 愛海

ある日、図書室に行つて本をながめっていると、ある一冊の本に目が留まりました。その本は「やくそくだよ、ミュウ」という本です。

この本を手にとってみたきっかけは、題名に「やくそくだよ、ミュウ」と書かれてあり、「何を約束したのかな。」と、とても気になったからです。そこで、この本を選び、すぐに読んでみました。

この本は、犬のミュウが病気で死んでしまうと分かり、飼い主の男の子が最後までミュウのそばにいるという

お話です。このミュウは男の子がまだ生まれる前に家にやってきました。本当は「みゆき」という名前の犬でしたが、小さかった男の子はうまく言えなくて、「ミュウ」とよんでいました。

私がこの本で一番心に残った場面は、ミュウはしんでしまった時に、男の子が、

「ミュウはぼくの心の中で生き続けている。」

と言った場面です。なぜかというところ、ミュウが居なくなってしまうとても悲しいはずなのに、「自分の心の中で生き続けている」と言えた事が、とてもすごい事だとおもったからです。

もし私がミュウの飼い主の男の子だったら、同じくとても悲しい気持ちになると思います。そして何日もペッ

トの事を思い出して泣いているかもしれません。

どうして男の子は、「ミュウはぼくの心の中で生き続けている」と言えたのだろうかと考えてみました。

一つ目は、今までのたくさんの思い出が心の中に残っているからなのかなと思いました。男の子が生まれる前からいて、それから毎日毎日何をするのも、どこに行くのも一緒だったから、どんなに思い出があったことでしょうか。よう。

二つ目は、天国にいるミュウに心配をかけたくなかったらじゃないかなと思いました。ミュウはとても優しい犬でした。男の子のきらいなへびを追いはらったり、ブロッコリーを食べてくれたりしていました。だから天国でもきつとぼくの事を見守っていると思いました。

三つ目は、気持ちを切りかえて前に進まないといけな
いと思ったのではないかなと考えました。男の子には、
もうすぐ妹が生まれるので、今度は自分が妹を守ってい
く番だと考えたのではないかと思えます。

男の子とミュウの約束は、優しくて強い人間になると
いう事でした。だから男の子は、約束を守れていると思
います。

私はこの本を読んで、思い出が人の心を強くしてくれ
るのだと思いました。一緒に過ごした時間が思い出とな
って、どんなに悲しい時も、思い出が自分を支えてくれ
るんだなという事を学びました。

これからいろいろな別れを経験すると思います。いろ
いろな人や物との別れになっても、出会った人や物を大

切にして、悲しい事があっても、男の子のように前向き
に生きていけたらいいなと思えます。

読んだ本「やくそくだよ、ミュウ」

入選

家族になるということ

吾田小学校 六年 佐藤 陽菜子

この本は置き去りにされ、すてられた赤ちゃんのお話でした。でも、この赤ちゃんは主人公のダニーが見つけた救われます。この本の中に、「子供は愛してくれる人のもとにいるべき」という言葉があります。本当にその通りだと思います。世間では子供をぎゃくたいして、苦しめる事件が多くなっています。子供がしあわせであるかどうかは愛情がその子に注がれるかどうかだと思います。そして家族とはその愛情でつながっている人達です。愛情に包まれた環境かんだと思います。

ダニーにはピートという男性のパートナーがいます。つまり男性同士のカップルです。男性同士の「愛情」があるじょうきょうの中なかに赤ちゃんをむかえ入れ三人家族として過ごしていくという話です。私は最初びっくりしました。

「お父さんが二人ってこと？」

と頭の中がこんらんしました。でもこの二人は男性同士であっても、とても信らいし合って仲が良く、何でも相談できる良い関係で成り立っています。そしてその関係性の中にこの赤ちゃんを自分の家族としてむかえ入れたいという強い意志を感じました。

家族って何だろう、と思いました。血のつながった家族でも心がばらばらだったりします。血がつながってな

くてもしあわせな家族もいます。色々な家族の形があり
どれが正しい家族とも言い切れません。ただ一つ言える
ことは、家族は家族になろうとする強い意志があつて初
めて成り立つものだと思います。それがきずなでこわれ
ることのない本当の家族だと言えるのだと思います。

この本を読んで、私は家族の一員であり、愛情を受け
毎日過ごしているありがたさをあらためて感じさせら
れました。

読んだ本「ぼくらのサブウェイ・ベイビー」

【 中 学 校 の 部 】

金 賞

彼から知る、私に必要な考え方

東郷中学校 三年 蛭原 紗希

今回私が選んだ一冊は、「三苦の^{みとま}一ミリ」というワー

ドで話題になったプロサッカー選手、三苦^{みとま}薫^{かおる}選手の著

書『VISION 夢を叶える逆算思考』

「僕には夢を実現するためのブレない考え方がある」と

書かれた帯に三苦^{みとま}選手の強い信念を感じた。

この本を選んだ理由は、私自身、彼のことを昨年末か

ら応援しており、ただ単純に「興味」として読んだこの

一冊に人生観を一八〇度変えられたからである。

「僕には、(後世に語り継がれる選手になる)」という目

標がある」の一文で始まるこの本では、彼が自分のサツ

カー選手としての歩みを振り返りつつ、彼が今、日本代

表や世界最高峰のプレミアリーグでプレーできるよう

になった考え方が記されてあった。

サッカーでの内容が中心ではあったが、私の人生観を

変えたのはこの三つの言葉である。

一つ目。「自分にしかない武器を持つ」。

この言葉は一番初めのプロリーグに書いてあった言葉

だが、読み終えた後でも最も印象に残っている。三苦^{みとま}選

手の場合、自分の武器は「ドリブル」だ。「ドリブルと

いう武器があったからこそ、常に自信を持って相手に立

ち向かうことができた。自分にしかない武器を持ってい

ることは、必ず大きなアドバンテージになる。自分にしかない武器があれば、大きな強みや自分を信じる力にながると思う。」そう記されてあった。

私は、勉強においても、テニスにおいても、学校生活においても、考えられる全てにおいてまだ自分の武器を見つけれないと感じる。それが招く結果として私が考えたのは、「高校で他の学校の生徒の中に埋もれてしまう」である。特に突出した強みを持っていない状況

というのは一番良くない。勉強、スポーツ、リーダー適正など、どれかにおいて、「自分の武器」を見つけないといけないのだ。

現状、私はどの項目においても中途半端である。どれかの項目において、一つでも自分の武器となるものを見

つければ、今よりは確実に自信が持てる。特に、私は今年約九年間過ごしてきた仲間との最後の年だ。市外の学校に通いたいと思っっている以上、残りの期間で「自分にしかない武器」を見つめる必要がある。もう残された時間は少ないが、様々なことに挑戦し、「自分の武器」を探していきたい。

二つ目。「現状維持は、衰退である」。

この言葉は、三苦選手自身みとまが大学生時に耳にした言葉だと言う。日本では、「失敗を恐れる文化」が浸透している。自分からトライすることを推奨しない文化だ。他人の非難や嘲笑ちやうしょうを恐れて自らの行動を律する「恥の文化」が深く心に根差している影響だろうか。日本人は極端なまでにミスをすることを避けようとする傾向が強

いと感じる。現在海外で活躍する彼は、そんな風を感じたらしいのだ。

実際に私も、この一部分を読んだ時、深く共感してしまった。それは私自身が、ミス避けようとしてしまう一面に悩まされているからだ。「失敗を恐れるな！」と言われてもすつと心には入ってこない。「ミスは誰にでもあるから。次、頑張ろう。」その言葉も、正直、苦手だ。そのミスが、何よりも怖いからである。そのミスによつて評価が落とされたら？みんなから笑われてしまったら？そんなマイナス思考に陥おちいってしまい、こうしたほうがいいと分かっていると言えた試しはほんの一手握り。よつて何もしない「現状維持」で満足している自分分がいた。日本的な慎重な考えというのは確かに素晴ら

しいが、グローバルな視野で考えた時にはそれがデメリットとして働く。「現状維持は衰退」。折角良い言葉と考え方を学んだというのに、この言葉を忘れてしまつてはいけない。まずは自分から第一歩を踏み出す「アクション」を起こす力や勇気を身につけたいと思う言葉であった。

三つ目。「自分に期待しろ」

この言葉は、川崎フロンターレU-12の時、監督に彼が小さい頃から言われていた言葉だそうだ。自分が成長しに行くためには、自分の可能性に期待し、自分なら最終的にプロになれる、どんな課題でも解決できる、と言い聞かせることだと三苦選手は語っていた。みとま

私は過去を振り返って、自分の可能性を自分が信じ切

れていなかったことに気がついた。

自分の可能性を信じていなければ、成長などできるはずがない。私はそう思い直した。最終的には、自分が自分を信じ切れずに諦めた時点で成長は止まる。成長が止まれば落ちていくのみ。私は成長を止めないために「自分に期待する」ようにしよう。そう思った。

この本は驚きとともに答え合わせを聞いている感覚だった。こんな彼だからこそ「三苦の一ミリ」みとまを起こせたのだろう。彼の一冊は私に大切なことを沢山教えてくれた。この学びを胸に刻んでこれからの人生を歩みたい。

読んだ本 「VISION NOION 夢を叶える逆算思考」

銀賞

誰かの心を救う大事な言葉

飢肥中学校 二年 日高 結奈

皆さんは「生きる意味は何ですか」と聞かれたら、どのように答えますか。私はたくさん考えて悩みましたが、「これだ」という答えを導きだすことはできませんでした。しかし「人生を楽しむ」という気持ちは強く持っています。私はまだ十四才です。今までの人生を全力で楽しんできたとは自信を持つては言えませんが、前を向いて生きています。これから先、やってみたいことに挑戦したり、「生きる意味」を考えてみたことで、今の自分の行動や、自分の未来をどのようにしていこうかと真剣に考える時間になりました。

「生きる意味」を考えるきっかけを与えてくれたのは、森田碧あおの「余命 99 日の僕が、死の見える君と出会った話」という作品に出会ったからです。

まずこの作品の内容を紹介します。主人公は主に二人で、一人目は「人の寿命が見える」望月新太です。頭の上には 99 日が浮かんで見える時、その人は 99 日後には死んでしまうのです。二人目は「死期が訪れた人」が分かる黒瀬舞です。死期が迫ると背後に黒いもやがかかって見えるのです。様々な人たちの死を目の当りにして行く中で、舞は人の命を一生懸命に救おうとします。新太はというと人の命を救うことは運命を変えること。変えてしまえば新太自身に不幸がふりかかってしまうため、命の終わりを運命だとして、救うことをしようとしな

のでした。しかし舞の姿に感化され、一緒に救う道を選択します。最終的には自分も生きたいと願い行動していく話です。

この作品の中で印象に残った場面が二ヶ所あります。一つ目は、新太と親友の和也が会話している所です。新太は和也に、

「何のために生きてる？」

と問いかけます。和也は、

「死にたくないから生きてるかな。まだまだたくさんやりたいことがあるから死にたくない。だから生きてる。そんだけ。」

と答えます。私はこの答えにとっても共感しました。私もやりたいことがまだ残っているし、出会ったことにな

い世界を見てみたいと思ったからです。でも「死」は生きている生物全てに平等に来るものです。この平等が、早いか遅いか、不りよの事故なのか、自らなのか。生きたいと願っていても叶わない人もいて。だからこそ、自分の命ある人生を楽しめるよう、やりたいことには全力で臨んでいこうという気持ちが強くなりました。

二つ目は、新太自身にも死が迫ってくる中で、生きることをあきらめてもらいたくないと、黒瀬舞が、親友の和也の思いと共に、行動する所です。舞は新太に、様々な方法で生きていてほしいと伝えていきます。その思いが伝わり気持ちに変化が生まれます。新太は今まで自分のためだけに生き、死も運命だと考えていました。しかし舞の「私と一緒に生きてほしい。」という言葉で、新

太は「誰かのために生きよう」と決意することができたのです。舞の強い思いが新太の胸に響いたのです。

「言葉」で救われた経験が私にもあります。それは、友人関係や部活で悩んでいる時、私は先生に相談しました。先生は一对一で私の話をしっかり聞いてくれました。その時に、「しっかり言葉を出すことが大事。こうやって話す時間を作るので、先生に毒を吐きなさい。」と言葉をかけてくれました。胸にたまっているモヤモヤを聞いてもらえると、気持ちを理解してもらえた安心感から、涙も流れました。それと同時に心がすっきりしていきました。言葉の力は偉大で、次への行動の活力となります。我慢せず話をすることは大事なことだと思えました。

人は「死にたい」とか「死んだ」のように「死」という言葉を簡単に使っているように思います。いやなことや、辛いことがあった時、または周りの人に対して、軽い気持ちで使ってしまうことは絶対にやめるべきだと思います。「死」は平等にくるものだからこそ

れ、満たされていくと思います。人生一つしかない命なので楽しく充実した毎日をすごしていきたいです。

言葉の持つ意味をきちんと受け止め、向き合わないといけないことだと思います。この世に生まれてきたということとは、この地球上で楽しんで生きていいのだと思います。私は、たとえ運命が決まっているとしても、自分の人生の運命を悪い方向ではなく良い方向に変える行動をしていきたいです。人が人を思いやる温かさ、優しさから生まれる安心感。たくさんの方がこの思いやりの気持ちを持つことでお互いに心は救わ

読んだ本「余命 99 日の僕が

死の見える君と出会った話」

銅賞

よりよく生きる

飢肥中学校 三年 藤井 帆奈海

将来、自分がどんな職に就き、どんな幸せを手に入れているかなど、私は全く想像することができない。学校では受験に特化したテストも増え、総合の時間ではライフプランニングという将来について考える授業を何度か受ける。私の周りでは、友達同士で楽しそうに自分の生きたい高校について語っている場面をよく見かけるようになり、日々、焦りと不安は募るばかりだ。私はというと、高校や受験に関しては、いつも最初に「取り敢えず」という言葉がつくような考え方しかできない。好きな事はあるが、継続させる自信がない。頑張ろうと思

う事はあるが、努力を怠ってしまう。そんな私に手を差し伸べてくれたのが、『ピエタ』だ。

ピエタの舞台はヴェネツィアで、町の長閑な雰^{のどか}囲気やカーニバルの様子が美しく丁寧に書かれている。ピエタとは、ヴェネツィアに実際にあった慈善院だ。ここにはスカフェータと呼ばれる赤ちゃんポストがあり、棄児が預けられるようになっていた。ピエタは音楽院でもあり、音楽的才能を持った様々な娘たちが、この本の中心人物であるアントニオ・ヴィヴァルディによって「合奏・合唱の娘たち」に育て上げられたそうだ。私が驚いたのは、作中ではヴィヴァルディという人物自体は亡くなっていて、一人称視点になることは一切ないというのに、登場人物から語られるヴィヴァルディとの思い出だけで、

どんな人間性をしていたのか全てを知ったような気がしてくることだ。恐らく、ヴィヴァルデイが登場人物達に齎もたらした影響が大きかったからだろうと私は思う。

作中でのヴィヴァルデイは、不器用で、音楽の事しか頭になく、自分が狂っているのではないかと人に問う様な人物として書かれている。だが、言葉では人に伝えられなかったことも、彼は音楽を通して伝えることができただ。そんなヴィヴァルデイに人々は魅ひかれていったのだろう。

ピエタを読んで、私が特に感化されたのは、登場人物それぞれの生き方だ。主人公であるエミーリアは、ピエタで育ち大人になってからはピエタの事務的な仕事をしていた。しかし、エミーリアは孤児である故なのか、

スカフエータの赤ん坊を抱き上げる度に苛立ちを覚えていった。そして、カーニバルの夜、自分を捨てた両親をこっそり探しに行くのだ。エミーリアは、そんな特別な自分だけの秘密を、クラウドディアという人物に話してしまうことで、長年のわたかま蟠りに終止符を打った。果たして、私がエミーリアの立場になったら、誰かから綺麗な答えを貰っても、そう簡単に区切りをつけることができるだろうか。実際、エミーリアの両親は、彼女と再会しても只々煙たがるだけだった。私はきつと、目の前が真っ暗になり、時間が解決してくれるなどは微塵みじんも思わないだろう。だからこそエミーリアの話の終わらせ方が、とても美しく感じたのだ。

また、裕福な貴族の家柄であるヴェロニカも、彼女な

りの苦悩を抱えていた。ヴェロニカは、教養の一つとしてピエタに楽器を習いに来ていた。しかし、貴族という家柄だからこそ、秀でたものがない自分が、ピエタの娘たちよりも良い暮らしをしていることを恨んでいた。そんなヴェロニカも、エミーリアに連れられてクラウディアさんという人物は、コルティジャーナ、つまりヴェネツィアの高級娼婦をしているのだが、彼女はヴィヴァルディを心から愛せた作中で唯一の人物でもある。

そんな身分も家柄も全く異なる三人を引き合わせたのは、紛れもなくヴィヴァルディが繋いだ縁があったからだと思う。三人が言葉を交わしながら打ち解けていく場面は、私までもが三人と心を通わせられたような優し

い気持ちになれたのだった。

私がこの本で一番救われたと感じたのは、物語の最後に出てくる、ヴェロニカが幼い頃に楽譜の裏に書いた詩だ。「むすめたち、よりよく生きよ。」このむすめたちの中には、私も含まれている様な気がしてならない。私は今まで、必ず自分で正解を見つけないといけないと勝手に一人で焦っていた。だが、音楽だけを求め続けたヴィヴァルディ、過去に囚とらわれることを止めて前を向くエミーリア、貴族に生まれたことを疑問に思い、自分を模索するヴェロニカ、この誰もが自分で正解を見つけられずとも、一生懸命に「よりよく」生きたのだ。純粹でいて、強い意志が込められたこの詩は、私の心を温かいもので満たしてくれた。どんなに納得のいかない事があつて

も、どんなに苦悩を抱える事があっても、自分に正直であらうではないか。私は私の一音を響かせるために、精一杯よりよく生きていこうと思う。

入選

何がそんなに幸せなのか

鵜戸中学校 三年 濱田 ひより

読んだ本「ピエタ」

皆さんは、「コンプレックスがありますか。」こう聞かれて、「ありません。」ときっぱりと答えられる人はどのくらいいるのだろうか。だけれども今まで一度もコンプレックスをもったことがない人は、ごくわずかだろう。そしてこの本には、「コンプレックスのほとんどは自分だけの問題」と書かれており、自分のコンプレックスが人に迷惑をかけることもあるだろう。しかし、コンプレックスの中には、人に迷惑をかけないことのほうが多いだろう。自分にとっては、とても大きな悩みかもしれないが、自分さえ気にしなければそれは欠点になりえない。

欠点ばかりにこだわっていると、どんどん自分に自信がなくなっていくだろう。そこで、私がこの本を読んで心に残った2つの言葉を紹介する。

一つは、「初めから、完璧な人間なんていないように、初めから素敵な人間なんていないんだ」という言葉だ。私にもコンプレックスはいくつもある。しかし、それに負けないくらい、自分には良いところがあると思ってる。それと同じように、人間は、欠点でできているのではなく、良いところできているんだということを、再認識することができた。

もう一つは、「今このときを幸せにすることが正解なのではないでしょうか」という言葉だ。私は、人と自分を比べてしまう癖くせがある。皆さんは、人と比べたことは

ありませんか。その時の気持ちはどうですか。私は負けていると、とても悔しくなり、勝っていると誇らしい気持ちになります。しかし、人と比べ、誇らしい気持ちになつて幸せなのか考えた。当然、幸せと答える人もいると思う。しかし、私は幸せではない。だから、これからは、昔のことを考えるのではなく、今を幸せにできるようにしていきたい。

今紹介した言葉以外にも、心に残る言葉は沢山ある。そして、この本を読んで、私が思うことは、コンプレックスだと思っていることも、人それぞれの個性だということです。幸せだと思う瞬間は人それぞれだから、個性を大事にし、コンプレックスの部分もプラスに捉え、自分の良いところはこれからも伸ばしていくことが大事

です。悪いところだけを見るのではなく、良いところを
沢山探し、人生を楽ししかったと思いつながら生きていける
ようにしていきたいと思えます。

入選

尊い命

南郷中学校 一年 土屋 瑛音

読んだ本「君はそんなに弱くない」

僕は、『命のスケッチブック』という本を選びました。
その理由は、夏休みに入り子ども達が川や海で遊んで亡
くなるというニュースを見て「命」についてもっと考え
たいと思ったからです。

この本は、二〇〇六年に起きた山口女子高専生殺害事
件の遺族である中谷さんの講演をまとめたものです。愛
する娘を殺した犯人は自殺してしまい、動機も分からな
いまま苦しんでいただろうと思う。しかも犯人は、当時
十九歳で少年法に守られ、生きる事の意味、命とは何か

を問いかけている本です。この作品について特に印象に残った場面が二つあります。

一つ目は、母の中谷加代子さんが娘に「行ってらっしゃい」と見送った朝、夕方に娘が帰らぬ人となった場面です。娘は、当時将来の夢に向かって、新たな一歩を踏み出しているこうとしていた人生は、無惨な形で断ち切られてしまいました。あんなに朝は元気だったのに、突然娘が亡くなったからです。また、この現実から立ち直れなくなる母の気持ちを考えると、急に体が震え、固まり力が抜けた状態になりました。僕がもし、母親の立場だったら母と同じく立ち直れないと思いました。

二つ目は、母(中谷加代子)の今後の場面です。娘を亡くして一年半が過ぎしょうすい憔悴しきった母は、それでも立ち

直り加害者の親も被害者だと思い今の自分と重ね合わせて心配をしていたからです。僕ならずと恨んでいたと思います。けれど母は、相手の事を思い、心配までしていても僕には、理解できない事です。

この本を読み始めた時は、ただ単に好奇心で読み始めましたが、読み進めていくうちに、自分や周りの人が生きる意味と、深く命について改めて考えさせられました。この本を通して僕は、「生きる」という事の重要性を学びました。今後は「命」という事を真剣に考える時間を設け、これからの人生を大切にしていきたいです。

読んだ本「命のスケッチブック」

読書感想文の審査を終えて

読書とは本（作品）との「出会い」です。私たちはさまざまな本と出会う中で心が動かされ、これまでの自分や今の自分、そして未来の自分など、さまざまなことに思いが広がります。また、本（作品）の世界に飛び込むことで、日常では経験できないようなことを登場人物を通して経験したり、広い視野から自分の考えを深めたりしてくれるなど、自分の心を豊かにしてくれます。その本との「出会い」を「周りの人に伝えたい」ことや「周りの人と共有したい」こととして整理し、文章として書き表したものが読書感想文です。

今年度、日南市内の小・中学校から四十六点の読書感想文の応募がありました。どの作品も、みなさんの本との「出会い」を通して感じた思いが伝わってくる力作ばかりでした。これからも、みなさんが多くの本と出会い、豊かな心を育んでいってくださることを心から願っています。

鵜戸小中学校 校長 池澤 寛之

読書感想画入賞作品

【小学校一年生の部】



金賞 飢肥小学校 田中 葵
読んだ本「ふゆのおぼけ」



銀賞 桜ヶ丘小学校 島田 潤奈
読んだ本「おぼけのきもだめし」



銅賞 油津小学校 井上 大輔
読んだ本「かぼくん」



入選 飢肥小学校 河野 歩嘉
読んだ本「ふゆのおぼけ」



入選 油津小学校 河野 優杏紀
読んだ本「ごきげんななめなおさるさん」

【小学校二年生の部】



金賞 東郷小中学校 山下 翔生

読んだ本「わんぱくだんのおばけやしき」



銀賞 東郷小中学校 吉田 東洋

読んだ本「じごくにアイス」



銅賞 油津小学校 崎村 心春
 読んだ本「なまえのないねこ」



入選 東郷小中学校 小田 桜士朗
 読んだ本「わんぱくだんのかいていたんけん」



入選 潟上小学校 酒元 琉希
 読んだ本「そのときがくるくる」

【小学校三年生の部】



金賞

北郷小中学校 平下 ふうり

読んだ本「だいおういかのいかたろう」



銀賞

南郷小学校 阿部 美瑚

読んだ本「かもとりごんべえ」

銅賞

吾田小学校 落合 真代

読んだ本「小さな島の大きな祭り」



入選 桜ヶ丘小学校 鳥谷 快斗
「家守神1 妖しいやつらがひそむ家」



入選 北郷小中学校 由地 恵大
読んだ本「だいおういかのいかたろう」

【小学校四年生の部】



金賞

桜ヶ丘小学校 松浦 さや

読んだ本「ロザリンドの庭」



銀賞

桜ヶ丘小学校 河野 明日香

読んだ本「ドラゴン・スレイヤー・アカデミー⑨」



銅賞 油津小学校 鶴岡 夏楓
読んだ本「海をわたる動物園」

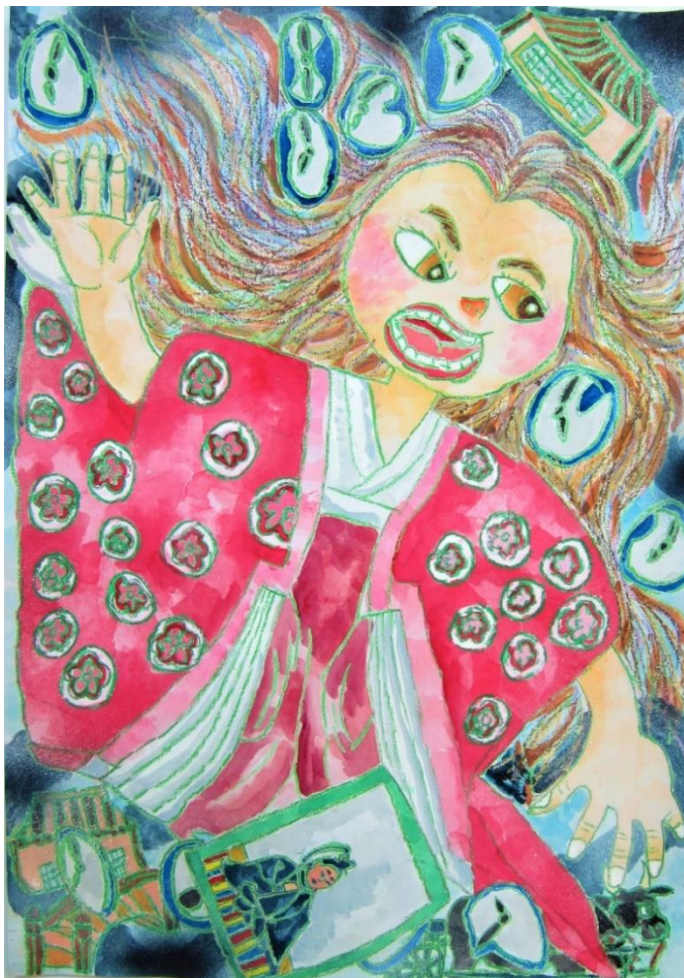


入選 南郷小学校 山本 涼菜
読んだ本「いつもなかよし」



入選 油津小学校 佐藤 心遥
読んだ本「海をわたる動物園」

【小学校五年生の部】



金賞

油津小学校 大浦 育夢
読んだ本「やくやもしおの百人一首」



銀賞

桜ヶ丘小学校 長友 愛莉
読んだ本「狐霊の檻」



銅賞 鵜戸小中学校 小寺 閃人

読んだ本「だれかそいつをつかまえろ」



入選 酒谷小学校 岩倉 白花

読んだ本「車のいろは空のいろ
白いぼうし」



入選 油津小学校 藤丸 秦生

読んだ本「七不思議神社」

【小学校六年生の部】



金賞

油津小学校 平永 一晋

読んだ本「人形つかいマリオのお話」

銀賞

油津小学校 村角 喜衣菜

読んだ本「ラスト・チェリー・ブロッサム」





銅賞 瀧上小学校 加藤 未彩
 読んだ本「セイギのミカタ」



入選 東郷小中学校 大友 李璃
 読んだ本「海のいのち」



入選 油津小学校 竹井 柚葉
 読んだ本「やくやもしおの百人一首」

読書感想画の審査を終えて

作品と呼ばれるもの全てに共通することは、作者の感性から生まれた何らかの「思い」が形となったものであることと、その「思い」を誰かに伝える力をもっていることだと思います。本という「作品」から感じ取ったものを、自分なりの表現で描く読書感想画は、そんな「思い」のリレーと言えるかもしれません。本を読み終えたその時から、すなわち、著者の「思い」を受け取ったその瞬間から、「どの場面を描こうか?」、「どんな構図にしようか?」、「どんな色を?」、「どんなタッチで?」というふうには、子どもたちの中で、新たな「思い」が走り始めます。「自らの感性に従って、自由にコース取りをしながら走りきった。」そんな痕跡の残る作品にたくさん出会うことができました。入選した作品は、その「思い」にかけてエネルギーが強く感じられる作品です。「思い」を生み出す感性と、その「思い」を伝える力、どちらも大切ですが、小学生という発達段階から、前者に重きをおいて審査させていただきました。

一年生の金賞、田中葵さんの作品は、主題に合った黒の画用紙を使い、その黒に薄く載せた色がとても美しいです。お化けを中心に、たくさんの人物が登場するとても賑やかで楽しい作品です。二年生の山下翔生さんの作品にもお化けが登場しますが、お化けや人物が大きく描かれており、その表情までよく伝わってきます。統一された色調が、この場面の雰囲気をよく表現しています。三年生の平下ふうりさんの作品は、中央に大きくかれたカラフルなイカ?の表情がとても良いです。画面一杯に伸ばした足とその周りで思い思いにイカと触れあう人物たちの表情もとても楽しそうです。四年生の松浦さやさんの作品は、丁寧に描かれたお花のアーチがとても印象的です。優しい色で表現されたこのお花のアーチが、この大切な場面を象徴しているのかも知れません。五年生の大浦育夢さんの作品は、主人公が、画面一杯に、表情豊かに描かれています。タイムスリップをイメージさせるこのお話の世

界で、主人公は一体、どんな冒険をするのか、ついつい知りたくなってしまいます。六年生の平永一晋さんの作品は、魅力的な二人の登場人物が、しっかりとした構図で描かれています。その表情や体の動きからは、高い技術が感じられ、淡い色調の中に入れた強い色が二人の存在感を感じさせます。その他の作品も、作品に込められた「想い」は様々です。子どもたちが繋いでくれたこの「思い」のバトンを、是非、受け取っていただければ幸いです。

桜ヶ丘小学校 校長 藤元 安春

審査員氏名一覽

池澤 寛之 鵜戸小中学校

尾前 亮一 南郷小学校

東 嘉太郎 社会教育指導員

湯淺 安彦 社会教育指導員

米良 照彦 社会教育指導員

榎木田 文生 社会教育指導員


宮脇 隆 社会教育指導員

上村 直輝 学校教育課 指導主事

藤元 安春 桜ヶ丘小学校

松浦 和枝 飢肥小学校

石塚 賢 北郷小中学校



令和5年度

日南市読書感想文・読書感想画コンクール受賞作品集

第15集

令和6年2月発行

発行 日南市教育委員会 生涯学習課

日南市中央通1丁目1番地1

編集 日南市教育委員会 生涯学習課図書館係

日南市飢肥2丁目6番18号

電話 (0987) 25-0158